

山梨県
芸術文化協会情報誌

藝文 やまなし

Vol.54

令和8年3月号

CONTENTS

令和7年度を振り返って
イベント紹介
芸術劇場 公演団体の声
芸術劇場 開催団体の声
芸術文化講習会 開催部門の声
賛助会員の紹介

事務局

山梨県 観光文化・スポーツ部
文化振興・文化財課
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
TEL 055-223-1797
FAX 055-223-1793
<https://yamanashi-geibun.net>

令和7年度を振り返って



山梨県芸術文化協会会長
野口 英一

日ごとにやわらかな陽射しが増し、春の気配が感じられる季節となりました。

令和7年度も、会員の皆様のご協力により、本協会事業を無事に完了することができました。本県の文化芸術の振興や担い手の育成にご尽力いただきましたことに、心から感謝申し上げます。

山梨芸術劇場では、太鼓、演劇、邦楽、音楽の各部門の会員による6公演を実施しました。演奏体験等、舞台芸術を体感してもらう内容を含む工夫を凝らした公演により、多くの子どもたちに文化芸術の楽しさを実感してもらえる有意義な機会を提供できたことと思います。

指導者派遣事業では、美術、書道、ハンドクラフト、音楽、合唱、邦楽、太鼓の各部門の会員に、派遣希望のあった学校へ出向いていただき、指導していただきました。専門的指導を受けることにより、県内の子どもたちの芸術文化に対する知識・技術が向上し、本県の文化芸術活動の担い手育成の一助となったのではないのでしょうか。

芸術文化講習会では、書道、ハンドクラフト、合唱、民謡民舞、朗読の各部門の会員による講習会が実施されました。昨年度3部門での実施に対し、今年度は5部門での実施となり、多様な文化芸術活動において専門分野の理解を深める機会を設けていただくことができました。

各部門におかれましては、今後も積極的に本事業をご活用いただき、担い手育成や技術の研鑽に繋げていただければと思います。

少子高齢化の進行に伴い、文化芸術分野においても担い手不足が深刻化する世の中ですが、人生の豊かさの源となる本分野の灯を絶やさないためにも、これまで以上に若い世代に文化芸術の素晴らしさを実感してもらう機会を増やし、担い手確保のきっかけを作ることが必要です。

会員の皆様におかれましては、今後とも本協会の事業に対し、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、結びとさせていただきます。



イベント紹介

会員の活動をホームページで紹介しています。詳しくはこちら
<https://yamanashi-geibun.net>
(山梨県芸術文化協会ホームページ)



芸術劇場 公演団体の声

南アルプス桃源交響楽団 団長 植村 武彦

「小学校でゴジラですか!？」と団員が驚いた葦崎北西小学校の芸術劇場公演。校歌の作曲者が、かの伊福部昭先生とのことで、学校側からの要望もありメインプログラムは『SF 交響ファンタジー』という異例の選曲となりました。(小学生の皆さんが飽きずに聞ける時間にするため、少しカットを入れました。)

このほか、スッペの『軽騎兵序曲』、オッフェンバックの『天国と地獄』という馴染みのある軽快なクラシックと、各楽器の音を聞いてもらうためにジブリのメドレーを演奏しました。『さんぽ』では、子供たちも足踏みをしながら一緒に歌っていただき、体育館中が楽しい雰囲気になりましたし、オーケストラの伴奏で歌ってもらった校歌は、とても素敵でした。我々も楽譜どおり校歌を練習してきましたが、子供たちが生き生きと歌うと、こんなにも違うものかと驚かされました。

演奏の後は、子供たち全員にヴァイオリンなどの弦楽器や、打楽器を実際に体験してもらいました。この芸術劇場をきっかけに学校の音楽活動がますます活発になり、少しでも人生の肥やしになればうれしいです。また、今回は保護者の方も聞きに来てくれていましたので、子供たちの体験を共有でき、よりよかったです。ありがとうございました。

最後に、葦崎北西小学校の体育館は響きがよく、朝早

い時間からのリハーサルに合わせて暖めてくださっていたので、快適に演奏することができました。公演が終了するころには給食室からおいしそうなカレーの匂いが。芸術劇場のために土曜日に登校してくれた子供たち、準備や進行をしてくださった保護者の皆様や先生方、給食の調理員の方々に感謝申し上げます。



芸術劇場 開催団体の声

葦崎北西小学校 教頭 佐野 一記

黄金色の稲穂が揺れ、ぶどうの収穫やワイン醸造が始まる秋の葦崎。本校では、PTA主催の芸術鑑賞教室を毎年大切に開催しています。しかし、近年の予算確保は容易ではなく、実施には苦慮していました。そのような中、本事業とのご縁があり、11月15日(土)に、南アルプス桃源交響楽団による演奏会が実現しました。

事前の打ち合わせで「子どもたちと楽団の共演」を相談したところ、快くお引き受けくださり、何度も打ち合わせを重ねました。日頃、全校児童が音楽集会等で親しんでいる歌や校歌をオーケストラの演奏で歌えることになり、子どもたちと一緒にこの日をとても楽しみに待っていました。

当日、朝早くから会場の体育館に響き渡るリハーサルの音色。その美しさに開演前から学校中がわくわくした高揚感に包まれました。

オープニングは、勇壮なスッペの『軽騎兵序曲』。そして運動会でおなじみオッフェンバックの『天国と地獄』。子どもたちが笑顔で肩を大きく揺らし、一気にオーケストラの世界へ引き込まれていきました。楽器紹介を交えたスタジオジブリメドレーに続き、本校の校歌を作曲した伊福部昭氏の『SF交響ファンタジー』の演奏が始まると、会場は一変。重厚な「ゴジラ」の旋律に、初めてオーケストラの生演奏を聴

く子どもたちは、その迫力に圧倒されていました。

フィナーレは、全校児童で『さんぽ』と葦崎北西小校歌を合唱。オーケストラの豊かな響きを全身で感じながら歌った体験は、子どもたちの心に深く刻まれる「協演」となりました。心より感謝申し上げます。

演奏会後の楽器演奏体験では、初めて触れる弦楽器に目を輝かせながら、音を楽しむ姿があちこちで見られました。音楽の力、そして本物の芸術に触れる喜びを存分に味わうことができました、素晴らしい時間となりました。



芸術文化講習会 開催部門の声

合唱部門 渡邊 玲子

合唱部門は、県内で合唱を愛好する皆さんが合唱を取り組む上での基本的な発声方法や歌唱方法など様々な方向から技術向上を目指すことを目的として実施しております。毎年、各合唱団の垣根を越えて、中学生から一般の合唱団まで、世代も超えた参加があり好評をいただいております。

今年度は、作曲家の森山至貴先生を講師にお招きし、先生の作品である混声合唱「愛」と女声合唱「世界を歌う」を題材にして二講座を実施しました。

まず、女声合唱の講座では、サラ・ティーズテール作詩、木坂涼訳詩の「世界を歌う」の詩句に魅かれた森山先生の作曲意図を解説していただき、受講者はただ美しいメロディーを歌い、合唱するだけではない、深い音楽の心を捉えて表現の幅を広げていきました。女声が紡いだ言葉を歌うことの意義について考えながら、温かいハーモニーに包まれて合唱する喜びに満ちていました。

午後からは、中高生を中心とした若い合唱団の皆さんの参加で、生き生きとした若い声が森山先生の一言でどんどん変



10月19日(日)YCC県民文化ホール会議室での様子

わって行く様子がよくわかりました。「『愛』を歌うなんて恥ずかしいから『自分の心にめぐり会いたい』という詩に感動して作曲したという森山先生の作曲の過程、音の使い方などを伺い、音に込められたメッセージを理解してまた、他者に届ける合唱の素晴らしさを味わうことができ、最後の通しの演奏は、受講した皆さんの充実した表情が大変印象的でした。

秋の休日、合唱講習会で今年もまたひとつ、新しい感動を得ることができました。これからも山梨の合唱の輪を広げられるよう企画運営していきたいと思っております。

賛助会員の紹介

当協会の趣旨に賛同して下さりご協力をいただいている賛助会員の皆様です。 令和8年3月現在

天正十年(1582年)創業。
鹿革と漆の伝統技を今に伝える甲州印伝の総本家。



www.inden-ya.co.jp



株式会社 吉宇屋本店

和楽器専門
有限会社 田中楽器
Tel&Fax 055-222-7061

創業1902年(明治35年) 安心も一緒にお求めください
内藤楽器株式会社
TEL:055-243-8200 http://naito-gakki.co.jp
楽器・楽譜・防音室・ピアノ調律・楽器修理・買取・運送・ヤマハ教室



真心と確かな技術
株式会社 早野組
環境への想いをかたちに

甲州西条名産書道用紙・用具販賣卸
有限会社 表現社

額縁・洋画・デザイン・日本画材料
みくに画材店
TEL 055-252-1614 FAX 055-252-1618



山形屋琴三弦店
創業145年、最高級の技術で
和楽器の製造と修理を承ります！

(一社)山梨県労働者福祉協会

公益財団法人 やまなし産業支援機構



写真は大切な宝 我が家の財産
株式会社 山梨フジカラー
http://www.yamanashi-fuji.co.jp/



山梨日日新聞社



山梨文化会館



YBS山梨放送



セブンフロンティアラボ 株式会社

連合山梨
〒400-0858甲府市相生2-7-17
TEL 055-228-0050